

令和2年度第1回全国健康保険協会石川支部評議会 議事要旨

日時 令和2年7月10日(金) 13時30分～15時00分

場所 いしかわ総合スポーツセンター 第1会議室

出席者 評議員(各50音順、敬称略)

【学識経験者代表】

森山 治

【事業主代表】

馬場 貢

【被保険者代表】

梶 郁代、山副勝也

石川支部職員

横本 篤、田中 義則、出口 豊晃、加納 宏

木村 健次、川田 一彦、牧野 憲子、山形 奈津海、長谷 玲花

議事

- (1) 令和元年度決算(見込み)について
- (2) 令和元年度事業実施結果について

【支部長あいさつ】

今回の評議会は、昨年度の協会けんぽの決算及び石川支部の収支の結果についてご報告させていただきます。

平成30年度の数字をもとに令和元年度の医療費及び標準報酬を予想し、各県の保険料率を決定しましたが、結論から言うと、石川支部の収支については、予算よりも支出が4億円以上増え、保険料率は上がる結果となりました。

分析の結果、一人当たり医療費の伸び率は全国よりも高く、標準報酬の伸び率は全国平均よりも低いという結果となっており、結果的に収支はマイナス修正になることが見込まれます。保険料率については、秋の評議会で改めて議論いただきますが、この結果だけで保険料率が決まるわけではないので、結論を出すのは先送りとさせていただきます。しかし、我々の施策が加入者の皆様の健康に影響を与えることは一朝一夕とはいかず、評議員の皆様のご意見を伺いながら、更なる発展が必要であると考えます。

続いて昨年度の石川支部の施策の結果についてですが、こちらはKPIという数字で目標を設定し、その達成度合いを評価していますが、ほとんどの項目で目標を達成したといえます。しかし、6月末に出された全国の支部評価を見ますと、昨年は全国1位でしたが今年

は 33 位となっております。昨年トップをとった反動はあるにせよ、まだまだ我々の努力が足りない部分があると実感しております。

評議員の皆様には、決算及び施策の内容についてご理解いただき、今後の我々の施策の方向性についてご意見をお願いしたいと思います。

(1) 令和元年度決算（見込み）について

資料 1：令和元年度決算（見込み）について

参考資料

【被保険者代表】

収入が増えたのは大規模健保組合の解散ということであるが、派遣業健保の解散では被保険者何名ぐらい増えたのか。

【事務局】

全国で約 50 万人である。

【被保険者代表】

健保組合に入る際は業績等の審査があるが、協会けんぽに入る際にはそのようなものはないのか。

【事務局】

協会けんぽは最後の受け皿のためそのような審査はない。

【被保険者代表】

被保険者データをみると標準報酬がマイナス 0.3%となっている。今回の派遣業の解散のように、標準報酬が低い健康保険組合が入ってくるが、かかる医療費は標準報酬が高くても低くても変わらない。健康保険組合は財政的に厳しいところが多いため、今後もこの傾向は続くのか。

【事務局】

その傾向が進んでいく可能性はある。ただし、健康保険組合は標準報酬は低い平均年齢も若いため、医療費を使う方も少なく、一概に支出が増えるとは言い難い。

しかし、単独で運営できない健康保険組合は、協会けんぽの方が保険料率が低いいため協会けんぽに入ってくる傾向があり、この傾向はなくならないと思われる。

【被保険者代表】

収入と支出のその他が増えているが、その他とは何か。

【事務局】

収入の主なものとしては資格喪失後受診の債権回収分がある。支出は貸付金精算や返還金、業務経費等がある。

(2) 令和元年度事業実施結果について

資料 2：令和元年度事業実施結果について

【被保険者代表】

令和元年度はK P I について達成している項目が多いが、令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響で健診受診率や特定保健指導実施率が厳しくなると思うが現状はどうか。

【事務局】

石川県内でも生活習慣病予防健診については 4～5 月は止めていた。6 月に再開しているが、感染予防の対策として 1 日あたりの受け入れ人数の制限等を行っており、予約が取れないという声もある。厳しい状況であると感じている。

【被保険者代表】

新型コロナウイルスの影響で医療機関の受診抑制や健診の未実施により予防の部分が疎かになり、早く受診できていれば軽症で済んだものが重症化してしまい、結果的に医療費が高くなるのが今後想定されるのではないかと。

【事務局】

懸念されるとおり。

【事業主代表】

当社も通常は 5 月頃に健診を行っているが、今年は 9 月に実施となっており、来年の健診を通常期に戻すと半年しか間がなく、それもよいのか心配である。

【事務局】

全体の傾向として健診の受診は 4 月の年度初めから 7 月くらいまでが多い。新型コロナウイルスの影響がどこまであるか読めないが、出だしが遅れていることは間違いない。

医療機関のデータを見ると、特に若い世代の受診が下がっているが、高齢の方はあまり下がっていない。特に未就学児の受診が例年の5～6割まで下がり、現役世代も8割くらいになっている。

現状として、健診機関においては医療が中心であり健診を全く実施していない医療機関もある。

今年度は生活習慣病予防健診未受診者のバス健診を年度末に向けて予定していたが、状況によっては、新型コロナウイルスの影響で健診を受けられなかった人を対象にすることも検討している。

【事業主代表】

新型コロナウイルスに感染した場合の費用はどこが負担するのか。

【事務局】

検査と医療の部分で分かれる。検査は公費だが、例えば肺炎にかかられて入院されたらそこは保険医療ということになる。

【事業主代表】

来年は医療費がかさむということになるのか。

【事務局】

新型コロナウイルス関係と通常の医療を分けると、通常の医療費が下がっている状況で、その分の医療費がどれほど下がるかは読み切れない。新型コロナウイルスは、軽症の方はそれほど医療費がかからない。数そのものからいうと、一般の診療が減る方が多いのではないか。

現金給付の面では、新型コロナウイルス関連で会社を休まれて傷病手当金を請求される方は何人か出てきているが、医療給付と違い金額的には大きくない。

新型コロナウイルスに関しては、石川支部ではこれまで傷病手当金の請求は24件で人数としては22人。4月、5月の傷病手当金全体でいうと、件数は昨年比で7%～12%増えている。傷病手当金全体で支払い件数が増えているが、会社の休業等により有給休暇で支払えず、傷病手当金でということになったのではないかと考えられる。

全体としてはまだわからないが、マスクをしているため今年はインフルエンザで治療された方は少なかったと聞いている。

【学識経験者代表】

手洗いとうがいがある有効であると疫学的に証明されていると一般的には言われている。毎年やっていたらインフルエンザの罹患率も下がると想定される。

【被保険者代表】

新型コロナウイルスによりインセンティブ指標にも影響があると思うが、制度は現行通りか。今年インセンティブ制度を行わないということはないのか。

【事務局】

昨年度分が来年度の保険料率に反映する。新型コロナウイルスの影響が全国同じとは考えにくく、どのように調整するか難しいところであるが、今のところそのような話は出てきていない。我々も危惧しており、昨年ほど良くはないと考えている。石川支部では3月に健診と特定保健指導を独自に中止した。その影響は出てくると思われる。

上記議事要旨のすべての内容につき、公開することを承認する。

令和 年 月 日

_____ (印)